

小学校 2年生生活科「大切な人の為にランの花を咲かせよう」

作成者：有限会社椎名洋ラン園 椎名 輝

- 対象者・人数：小学校2年生 2クラス 38名
- 所要時間：生活科 1時限（45分）
- 対象場所：小学校、中学校、高校、大学
- 指導者・アシスタント人数：
1クラス講師1名、アシスタント1名

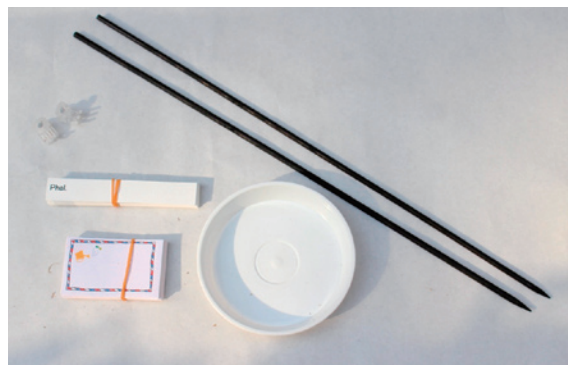


実践概要

教室内で花芽付きコチョウランを育て、開花したコチョウランを自分の大切な人の為のプレゼントとして持ち帰る花育である。「大切な人の為に花を咲かせるカリキュラム」として、理科の実験ではなく、心の教養を育む道德、生活の授業として児童、生徒に取り組んで貰う。大切な人の為に、という明確な目的を意識する事により、花の持つ魅力と、相手への思いやりを育む事が主な目的である。

■ 資材 <1回目>

- ・支柱（30cm程度）
- ・クリップ（支柱とランの花芽を留める）
- ・植物の名札（花に名前を付ける）
- ・鉢皿



<2回目>

- ・メッセージカード
- ・リボン
- ・持ち帰り用の箱

- 花材 ・コチョウラン4号鉢 1鉢
(花芽が2本ついた苗)



【指導内容と目的】

「大切な人の為に花を咲かせるカリキュラム」として、大切な人（受け取り手）の事を考えながらコチョウランを育て、受け取った時の相手の反応、笑顔を感じて貰う事を第一の目的としております。花生産者の仕事、又、他の職業の方々にも通じる事ですが、自分の成した事によって相手が笑顔になると云う事は、やりがいのある報酬であり、花を用いる事によって、人と人との心の繋がりを感じて貰う事を、第一の目的としております。

本来育てるのが難しいといわれるコチョウランを用いて、花を咲かせることにより、植物に対しての興味、自信にも繋がり、他の植物へ興味の広がりも期待できる事や、教室内で育てる事により、植物の成長を身近に感じて貰う事も大切な目的となります。

指導内容としては、大切な人の為に花を咲かせるという明確な目的意識を持って貰い、自分の為だけではなく、大切な人の為に花を咲かせる意味を考える事に尽きます。

実施した小学校の先生が本件花育に取り組むにあたり、大切な目的を伝えておられました。「お母さんからの命の繋がりをいただいて皆さんがここにいます。このお花に愛情を注いで命を育ててくれたお礼として育てていきましょう」。

【対象者への配慮】

当たり前ですが、1つとして同じ姿形の花が咲く事はありません。

工業製品と違い、1鉢1鉢の個性であり、自分でしか咲かせられない花の姿なので、優劣を付ける事無く平等に扱う事が大切となります。

花芽は柔らかく折れやすい為、花芽が折れてしまった場合、担任の先生のスペア鉢と交換してあげてください。花芽は2本付いておりますので、最低でも1本は開花させる事ができるかと思えます。

稀なケースですが、開花が極端に遅かったりする場合、置き場所に問題がある場合があります。後述致しますが、教室内で育てる場合、日照の当たる置き場所と日陰になる置き場所を定期的にローテーションさせて頂く事が必要となります。

■ 1 指導計画・スケジュール

< 9月から活動を始める場合 >

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
■学校との打合せ				■学校との打合せ				■2月～3月頃次年度の調整 学校との打合せ				
				活動時期9月～12月上旬								
				●9月 1回目の活動	栽培・成長観察		●12月 2回目の活動					
●圃場にて苗の準備												

< 3月から活動を始める場合 >

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
■学校との打合せ											
			活動時期3月～5月								
			●3月 1回目の活動	栽培・成長観察		●5月 2回目の活動					
●圃場にて苗の準備											

■ 2 事前の準備

資材、花材の準備



少人数での実施であれば、1週間前に花芽付き苗の選定を行い鉢入れをする。使用数量が100鉢以上など、多くなる場合は、事前の開花調整が必要となる為、遅くとも3ヵ月前には苗の準備に取り掛かる必要がある。

■ 3 当日の流れ

10月30日 1回目

時間 9:00~9:30

生産圃場にて、搬入する苗や資材の準備と車に積み込み作業

- ・数量の確認
- ・各クラスごとに仕分け



時間 9:30~10:30

学校への搬入（車）、スタッフで最終打合せ

- ・授業場所へ荷物を搬入

時間 10:30~10:45

全体説明

- ・生育～持ち帰りまでの説明



時間 10:45~11:15

教室へ移動、各クラス事に授業を行う

- ・コチョウランの性質、育て方などの説明
- ・水のやり方や鉢の置き方の指導

1月13日 2回目

時間 9:30~10:30

学校への移動（車）、スタッフで最終打合せ

- ・授業場所へコチョウランを入れる箱やリボンなどの資材を搬入

時間 10:30~11:15

各クラスで、授業を行う

- ・箱の組み立て方とリボンの作り方を説明
- ・持ち帰った後の管理方法の説明

■ 4 具体的な手順 (1回目)

<全体での説明>

① 自己紹介

講師の出身校で実践する時は、

「近くの〇〇から来ました」

など身近な内容を話すと親しみがわく。

アシスタントがいる場合には、紹介する。



② 内容の説明

・これから実践する内容を簡単に説明する。

✧ コチョウランの苗を受け取る

✧ コチョウランに名前をつける。

✧ 支柱を挿す。

✧ 専用のクリップで花芽をとめる。

✧ 水をあげる。

※黒板があれば、箇条書きにして説明するとよい。

・コチョウランの説明

実物や写真などを用意して、植物の説明をする。

<コチョウランの基本的な解説など>

原産地 東南アジア

開花期 日本では12月～3月位まで。

特徴・コチョウランは着生ランという、木などに根を広げて着生する高温多湿地域の植物です。

・元々熱帯雨林に生息する生物なので寒さには弱く、最低温度は10℃以上必要とされています。

・コチョウランはCAM植物といって、夜間に光合成をする珍しい植物です。

③ 1人1鉢受取り、教室に移動する

・両手でしっかりと鉢を持ち、教室に移動する。



<教室での説明>

④ コチョウランに名前をつける。

- ・プレゼントする相手をイメージしながら、コチョウランに、オリジナルの名前を付ける。（名前を付けると、愛着がわき毎日の世話も積極的に行える。）

例1) お母さんがピンクが好きだから。

「ピンクビューティ」など

例2) 大切な人の名前を花に付ける



⑤ 名前札にコチョウランの名前を書き鉢に挿す。

鉢に、自分の名前を書く。

- ・根と鉢のすき間に、名前の札を差し込む。
- ・鉢に油性のペンなどで自分の名前を書く。（名前シールなどを使用してもよい）

※教室に並べたときに、自分の鉢がわかるように名前を書いておくとよい。

- ・目印のシールや鉢に絵を描いてもよい。



⑥ コチョウランの根元に水をたっぷりあげる。

⑦ 水が鉢底からでなくなったら、鉢皿にのせて教室まで運ぶ



⑧ 教室の後ろや窓際など暖かいところに置く。



⑨ 管理の仕方について説明

コショウランの水やりは、1週間に1度⑥⑦の工程と同じく行ってください。

コショウランの花芽は日照に向かって伸びていく為、花芽の先が向いている方向を南側に向けて置いてください。

よりきれいに開花させる事が出来ます。

*教室で育てる場合、日向に置くかと日陰に置くかで成長に差が出る為、水やりの際に場所の変更を行ってください。

1週間置きに、日向→日陰→日向→日陰のローテーション。

*日照が強い時は、カーテンで遮光してください。葉焼けする可能性があります。

5月～10月上旬までは特に注意が必要です。



⑩ 支柱を鉢に2本差し込む

花芽が約20cmの程伸びた段階で、鉢に対して真っ直ぐ支柱が立つように支柱を2本差し込み、花芽と支柱をクリップで固定する。花芽は柔らかく折れやすいので、折らないように注意して行ってください。



⑪ 支柱に花芽を専用のクリップで固定する。



- ⑫ 教室の後ろなどに鉢を置き育てる。
- ・置き場所の温度は、
日中20度前後、夜間でも10度程度が望ましい。
 - ・暖かい場所に置き、1週間に1度水やりを行う。
 - ・窓側と廊下側では、温度差があるため様子を見て場所をローテーションする。



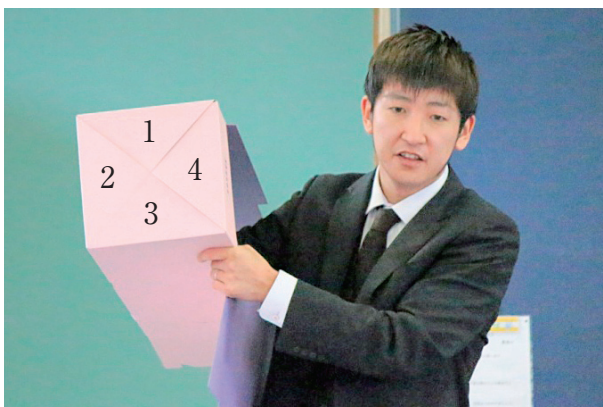
■ 5 具体的な手順（2回目）

クラス全員のコチョウランが開花したら、持ち帰りの日時を決め、プレゼント用に仕上げる。

- ⑬ 開花したコチョウランを渡す。
- ・花は4輪～半分咲いていれば良い。
 - ・児童名とコチョウランにつけた名前を呼び、1人1人に花の咲いた鉢を手渡す。
 - ・「がんばって育てたね」
「こんなに咲かせてくれてありがとう」
「よかったね」など指導者から一言添える。
- ⑭ 箱とリボンを作り、メッセージカードを添える
- ・大切な人にプレゼントするために仕上げを行う。
 - ・ダンボールで出来た箱を配る。



- ⑮ 箱の組み立ては、指導者が箱を用いて作りながら説明する。
箱の底面は、1・2・3・4の順で折り畳み、底がきっちり固定されている事を確認する。



組み立てが完成した箱

⑩ リボンはワンタッチリボンを用いて作る。

- ・リボンの内側にある2本の細いヒモを引くだけで、簡単にリボンができる。



⑪ 鉢にリボンを付ける。

- ・鉢を正面に向けて、茎や鉢など好きなところにリボンを付ける。
- ・友達にリボンを抑えてもらい、リボンの後ろに行って結ぶと上手に結べる。



⑫ カードにメッセージを記入する。

- ・日頃の感謝
- ・大事に育てた想いなど



⑬ 記念撮影



② 持ち帰った後の管理方法（当日の配布資料）

お子様の育てた胡蝶蘭を大切に管理して頂く為に

①置き場所を決める

良い胡蝶蘭を育てる為に重要なのは、胡蝶蘭の置き場所です。自宅に苗を持ち帰ったら、下記内容の通りに最適な置き場所を探しましょう。

- 1、少しでも日照の入る場所（直射日光はNG）
- 2、空気の籠らない場所（30℃以上はNG）
- 3、冬場でも暖かいところ（最低10℃前後）
- 4、冬場でも湿度が保てる場所（20%以上）

★冬場はなるべく暖かい所に置くことが最優先事項です。

オススメはリビングのカーテン越しです。



②置き場所をなるべく変えない事
置き場所が多少過酷な環境であっても、胡蝶蘭は、置かれた場所に適応していく能力を持っています。

最適な置き場所を見つけたら、なるべく置き場所を変えないで管理する事を強くお勧め致します。

③水やりや肥料について

パーク栽培に適した水やりは、夏場で5日～1週間に1回、冬場で10日～2週間に1回、春と秋は1週間に1回となっております。

冬場は水やりを控え、夏場はタップリと水を与えて下さい。

※鉢底に穴が空いていない鉢は、よく水切りをしましょう。

※肥料は半年分入っておりますので、翌春まで一切必要ありません。



■ 6 実施する上での課題

- ・先ずクラス全員のコチョウランを开花させる事が1番の目的であり課題となる。
- ・生育スピードに若干の差は出るが、置き場所をローテーションさせる事により、ほぼ均等に成長させる事が出来る。
- ・大凡2カ月から2カ月半で开花となるが、実施地域（寒冷地）によっては开花に3ヵ月以上かかるケースもあるかも知れません。
- ・管理自体はそれほど難しくないが、支柱立てなどの技術的要素が必要となる為、指導者の指導技術も重要となります。

■ 7 改善点等

- ・今回は実施期間を敢えて育てるのが難しい10月開始、1月終了としたが、実施期間は、コチョウランが育て易い3月スタート、又は9月スタートの年2回に分けるのが好ましい。
- ・支柱立ての段階で支柱立ての角度が傾いていると、持ち帰りの箱入れ作業の時にコチョウランが箱に入らない等のトラブルが発生する為、支柱は垂直に差し込みしっかりと固定する。
- ・リボン縛るのに苦戦する児童が多かった為、リボンを縛る際は2人1組で、リボンを抑える人、縛る人に分かれて行った方が効率が良い。
- ・リボンの色を7色持参したが、選ぶのに時間が掛かる、好みの偏りが出る為、花色に合うリボン1色に統一した方が良い。
- ・箱作りの工程が複雑な為、1度指導者が完成までの流れ、完成品を見せてから個々に指導する方が効率が良い。
- ・予想以上に花のボリュームが良く、持ち帰りの箱が大きくなってしまった。持ち帰り時の安全性も考慮し、再度適切なサイズを検討する必要がある。

■ 参加者や学校教諭からの感想

No	質問事項	評 価				
1	花卉業界が推進する学校での花育活動についてどう思われますか？	大変良い 81.2%	良い 18.75%	普通 0%	悪い 0%	どちらとも いえない 0%
2	花育という言葉・活動をご存知でしたか？	知っていた 3.12%	知らなかった 81.25%	聞いたことはある 15.6%	花育活動をした事がある 0%	
3	子供達が大切に育てた胡蝶蘭をプレゼントされてどう感じましたか？	非常に嬉しかった 93.7%	嬉しかった 6.25%	どちらとも いえない 0%	嬉しくなかった 0%	
4	花や植物は好きですか？	大好き 43.75%	好き 56.25%	どちらとも いえない 0%	嫌い 0%	
5	花を渡しに来た時のお子様の様子はどうでしたか？	ほぼ100%の親御様がニコニコしながら嬉しそうに渡されたとの回答結果でした。				

親御様からのご意見(一部抜粋)

- ・嬉しすぎて娘を抱き締めてしまいました。
- ・とても嬉しかったです。このような活動は、現代の忘れた何かを思い出すきっかけになると思います。
- ・素敵な花が育てられて、自信が持てたようです。
- ・誰かの為に花を育てるといのは、優しい気持ちが持てとても良いと思います。
- ・教育・商業的に一石二鳥だと思います。
- ・驚いた私の姿に、子供達はとてもうれしかったようで、お互いにHAPPYな気持ちになれたと思います。
- ・気持ちをとても温かくする事ができました。
- ・特に子供から貰ったので、大切に育てたいです。花の事で会話する事も増えました。
- ・とても意義のある活動でした。
- ・母親や家族との結びつきとして得るものを考え素晴らしい経験でした。たくさんもの子供達も知ったと思います。
- ・今回、子供から花をいただいてとてもうれしかったです。これからもつづけていってほしいと思います。ありがとうございました。